

# パワー浜松ロータリークラブ週報 2014年2月25日号

パワー浜松ロータリークラブ(2013-14年度会長:松本好司)  
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室  
Tel:053-452-0800 Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp  
創立:2002年10月22日 認証伝達式:2003年4月29日 スポンサークラブ:浜松中RC

## 本年度テーマ:Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう ～心で感じて・考えて・活動しよう～

ENGAGE  
ROTARY



CHANGE  
LIVES



### 第523回例会2月25日(火)PM7:00～8:30オークラクトシティホテル浜松4F平安の間

- 司会:加藤 ひとみ ■点鐘:松本好司
- ゲスト:米山記念奨学生 蔡遣さん、青少年交換留学生 マリーヌさん
- 議事:会員増強維持部会 植田舞様 卓話『イルカとコミュニケーションをとる方法』

### 出席報告

本日出席率  
57/80名  
71.25%  
前々回出席率  
90.0%

### 会長挨拶



本日は夜例会で、講師の植田舞先生をお招きして「イルカとコミュニケーションをとる方法」の卓話です。

講師植田舞さんは堀内会員の紹介により本日卓話を頂きます。堀内会員は植田舞さんのご主人様と親しいお付き合いの間柄で、奥様の活躍の話の伺い今回卓話をお願いしたという経緯でございます。昨年12月にご結婚され、新婚という事もお伺いしています。こんな接点で普段聞けない話を今日みなさんと聞けると云う事は、ロータリーモメントそのものではないかと思えます。本日は宜しくお願い致します。

先日の理事会承認事項よりご案内です。4月に浜名湖花博家族例会を小林会長エレクトと進めています。4月26日土曜日開催で例会変更の承認を得て準備をしています。又、講師の先生も小林会長エレクトに調整をお願いし、特に奥様に喜んで頂けるような内容になるかと思えます。3月29日にIM開催を控えています。IM開催の準備と開催後の皆さん御苦労様という意味も含め家族例会を開催すべく準備をしていますので楽しみにして下さい。

### 幹事報告

第8回理事会承認事項より例会変更のご案内です。

4月22日第531回朝例会を4月26日(土)開催に変更致します。

浜名湖花博例会として、浜名湖ガーデンパークにて午前10時～12の時間に例会変更を致します。当日は家族例会としてご家族の皆様にも参加して頂きたいと考えています。当日の集合場所等の詳細については後日ご案内させて頂きます。

又、例会変更に伴い第10回理事会を4月15日(火)夜例会の前 17:30より開催致しますので合わせてスケジュール変更をお願い致します。

2月の合唱練習スケジュールのご案内です。

2月27日(木)19:30～ はまホール

ロータリークラブ親睦合唱祭が6月7日(土)に名古屋で開催されます。パワー浜松 RC 合唱団として参加登録を考えています。急な話ですが締切2月28日までとなっています。詳細について後日メール致しますので参加望を募り調整したいと思います。

3月1日(土)米山記念会館にて米山奨学生サイ・ケンさんの終了式があり、小田木さん、小澤さんが出席されます。

次回は3月4日で社会奉仕PJ 担当です。ご出席宜しくお願いします。

### 委員会報告

**山本浩之さん(ロータリー情報部会):**ロータリーの友の紹介  
**中野麻衣さん(国際奉仕プロジェクト):**3/19 に熊谷さん、坂井さん、武田さん、五十嵐さんと私(中野)の5人でミャンマーの子供たちの支援活動に行っていることと、文房具を買うための募金と文房具の寄付のお願い。



山本さん



中野麻衣さん

### ハッピーバースデー

山本さん、高木さん、中野さん、渡辺さん、誕生日おめでとうございます。

### スマイル報告

#### 松本好司、諸星圭吾

植田 舞様、本日の卓話講演ありがとうございました。イルカとのコミュニケーションの取り方を参考に日々のコミュニケーションに活かしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

#### 中野麻衣

本年度の国際奉仕の事業「ミャンマーの子供たちへの支援」まで、残り1ヶ月を切りました。本日皆様にご協力を頂きました募金は、3月に現地を持っていく文房具を購入するために大切に使用させて頂きます。3月19日からの渡航まで更なるご支援を宜しくお願い申し上げます。

#### 高木一浩

2月23日浜松シティマラソンの5Kmの部に参加しました。目標の30分を切る事が出来なくて残念でしたが、無事完走する事ができました。一緒に参加した事務局の市川さんの速いのびびっくりしました。

#### 山本英夫

来月、3月18日(火)18:30～気功研究家の中村康弘先生をお呼びして「身体の声を聴く方法」というワークショップを開催します。宜しかったらご参加ください。私が20年来お付き合っている、その道の先生です。

#### その他の報告

**金山土洲さん:**3月の第二例会の卓話の副タイトルは、みんなの働く(遊ぶ)姿を見せて欲しいです。恥ずかしがらず、宜しくお願いします。

植田舞様 卓話「イルカとコミュニケーションをとる方法」

私は、東海大学海洋学部水産学学科を卒業後、株式会社沖縄マリンリサーチセンターに入社し、ドルフィントレーナーとして7年間勤務いたしました。昨年5月に結婚を機に退職し、現在は静岡市内で生活しております。沖縄マリンリサーチセンターは、沖縄に2か所あり、沖縄の地元の自然をフィールドとして動物や植物と触れ合うことを通して自然を大切にしたいという気持ちを育む環境教育を行っている会社です。年間を通して非常に暖かい気候、平均気温は 20 度を超える暖かい気候の中で、それを生かしてイルカを飼育して年間を通してイルカと触れ合うことができる場所となっております。



それでは、みなさん人間通しどのようにコミュニケーションをとっていますか？

人間の場合には、言語や文字、身振りなどを交えて行われますが、言葉が通じなく、表情の変わらないイルカたちとコミュニケーションをとるのは容易ではありません。イルカとのコミュニケーションと聞いてみなさん、どのような光景をイメージしますか？イルカと握手をしたり、背びれに掴って泳いだり人間が触れ合っているのをイメージするのではないのでしょうか？野生動物であるイルカと握手をしたり、会ってすぐの人間とコミュニケーションをとるのは困難です。このように人間とイルカがコミュニケーションをとるには、多くの時間をかけて良いトレーニングを重ねていくことが必要不可欠です。野生のイルカが人間の手から魚を食べることもトレーニングを行って習得していきます。コミュニケーションは、良いトレーニングの中で築かれていきますが、イルカにとっては、以下の3点でなくてはならないものです。第一に、健康管理のために必要です。野生動物であるイルカは体調が悪くても外敵に知られると命を狙われる可能性があるためそれを表にはだしません。また、イルカたちは表情筋が発達していないため表情で感情を読み取ることもできません。そこで、元気なうちからトレーニングによって健康チェックに協力してもらって動作を学んでいきます。具体的には、体温測定や血液検査、尿検査、口内チェックを行います。その他に、体重測定や内視鏡やエコー検査なども行います。また、マイクロチップの挿入も行います。沖縄マリンリサーチセンターでは国内で初めてイルカへのマイクロチップの挿入に成功しました。第二の理由は、運動のためです。餌となる魚を求めたり、敵から逃げるため、大海原を時には時速 60km/h以上のスピードで泳ぐこともあるイルカたちが、飼育下で追いかけて餌を取る必要もなく、運動不足になりがちです。そこで、イルカたちは水族館のショーなどで見られるようなダイナミックなジャンプやスピーディな泳ぎなどをトレーニングにより習得することで運動不足による体調不良にならないようコントロールしています。第三の理由は、脳への刺激を与えるためです。イルカは頭の良い動物で、毎日餌を与えるだけでは退屈し、ストレスを感じ、病気にかかる可能性もあるため、トレーニングによって脳に刺激を与え、生活を豊かにするなど非常に重要な役割があります。トレーニングでは、なるべく、イルカたち自身で考えるよう細かいステップアップをしていくことで教えていきます。このような理由でイルカへのトレーニングは毎日欠かさず行っていくものですが、トレーニングのために3つのことが必要です。1つ目は、相手を知ること(食性や習性、個々の性格)、2つ目は相手にとって味方だと理解させ、信頼関係を築くこと(遊びを通じてイルカにとって良い時間を過ごさせる)、3つ目は、トレーニングで教えた動作に必要な道具や環境を整えることです。イルカのトレーニングに必要なものは、餌となる魚、動作に見合った広いスペース、トレーニングに必要な道具、笛(ホイッスル)などが必要です。トレーニングを行う上では、3つのポイントがあります。イルカたちのトレーニングをする時、トレーナーは正の強化(褒める)を使って行っていきます。例えば、ジャンプをした直後に魚が出ると、その後この行動を繰り返すようになるということです。イルカが上手にできたら褒める、1cmでも高く跳べたら褒める、問題行動をしていないと褒める、褒めるだけですべての動作を作っていくことができます。2つ目は、罰を使わないということです。イルカを罰することは難しいだけでなく、長年かけて築いた信頼関係が崩れトレーニングがうまくいかなくなってしまいます。正の強化、すなわち、褒めることだけを使って何度も教えることができ、また合図に対して確実な行動を引き出すことができるだけでなく、問題行動をやめさせることもできます。正の強化をうまく使うとイルカは生き生きと喜んで動くようになります。トレーニングにおけるもう一つのポイントは、笛です。笛はイルカが聞こえる音域に設定されており、イルカのトレーニングにおいて褒める道具として笛が使われます。笛が鳴った直後に魚が出るという経験を繰り返すことで笛がイルカにとってうれしい音に変わったということです。笛こそがイルカの高いパフォーマンスを引き出す合図となったのです。トレーニングの第一歩は笛の意味を教えること(笛＝魚)、そして徐々に複雑な動作を作り上げていきます。トレーニングの途中にイルカに問題行動が出たら、無視をする、そして次に良い行動が出たらすかさず褒めます。これは、悪い行動に着目せず、良い行動を褒めることによって問題行動が消去され、望ましい行動が繰り返されるということです。このように3つのポイントを押さえることでどんな行動でも行うことができます。このようなトレーニングは、人間にも通用します。悪い行動に着目するのではなく、良い行動に着目して褒めようという姿勢になります。音を使わなくても良い行動をしたら褒めるというイルカの行動理論を人間社会でも応用すること大きな成果に繋がります。この理論を知ること

ですべての動作や行動は大きな塊ではなく、小さな断片によって形成されているということがわかるでしょう。

期待しすぎたり、結果を早く求めたりすることをやめ、小さくても褒められることだけを見るようになります。望ましくない行動を見ると早くやめさせようとあせるのではなく、トレーニングチャンスと考えてみましょう。大切な家族やペット、会社の同僚や友人と良い関係を築くため、今日からこのトレーニング理論を応用してみてください。きっと、生活においてストレスが少なく、楽しくなるはずです。

